

横芝の碑 (その二十五)

終戦処理内閣

鈴木総理揮毫の碑

このシリーズで若槻礼次郎総理や乃木希典將軍揮毫の碑を紹介したことがあります。最近「総理大臣であった將軍揮毫の碑が役場の前に建っている」という連絡を受けました。灯台元暗し、と自嘲しながら出かけて見ました。

中央公民館と、銀杏の大木を背景にして石垣の上に建った花崗岩の碑には、忠魂碑の三字が雄渾に躍り、侍従長海軍大将鈴木貫太郎書と刻まれています。

鈴木貫太郎大将は千葉県の出身で、連合艦隊司令長官、軍令部長等を歴任、侍従長であった昭和十一年、一部軍隊によって起ったクーデター(安藤陸軍大尉等の指揮する所謂「二二六事件」)の時その強靱により重傷をおいしましたが、昭和二十年四月から同年八月十五日の終戦日まで終戦内閣の総理として、本土決戦を主張する陸軍等を押えてポツダム宣言を受諾し、無条件降伏に導いて、日本を滅亡地獄から救った人であることは、四〇才以上の殆んどの方が御存知のことと思います。この碑は旧横芝町時代から役場の前に建っ

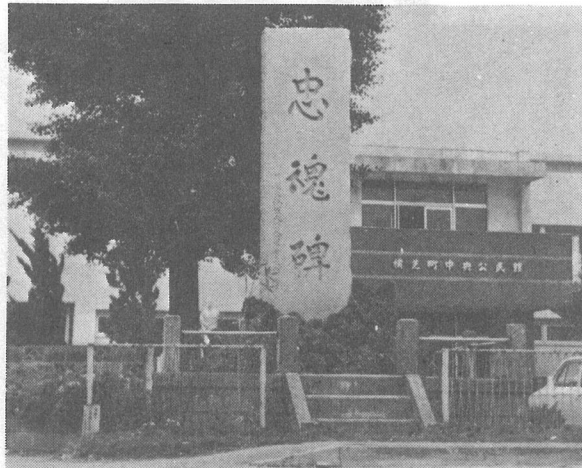
ていたこと等で、何となく役場の建造物の一部のように考えていたもので、つい見落してしまっていたのかもしれない。

しかし、この碑にも、世の中の浮沈や想出は残っています。終戦直後の昭和二十三年か四年頃だったと思います。進駐軍が、忠魂碑等は戦争を鼓吹するものとして、排除を指令して来たのです。絶対命令に遭遇した町長さん始め役場の首脳部は、鳩首対策協議しました。取毀すのは、遺族等住民感情に對して忍びない、又世に出ることもあろう、大体取毀の経費も大変だ、等々なかなか議がまとまりませんでした。その中に、当時の厚生主任(当時課長制度はありませんでした。)の本間書記(現収入役)の発案で、「碑の表面全部をモルタルで塗りつぶしておく」ということになったのです。さて、

よく、全面的濡らしたりしたもので、確か他の町村でもこれに習ってモルタル塗装方式を採用したことを記憶しています。其後、媾和、独立、等々を経過し、忠魂碑のモルタルもいつかきれいに取除かれ、すっきりした姿で私達の前に建っているのです。

して刻みこむことができないため別の碑に刻み、横芝町護国神社の境内に建ててあるのだそうです。忠魂碑の裏に小さい碑が建っている。従軍者の芳名が刻まれています。忠魂碑という文字から見てこの護国神社の境内に建っている方が関係深いことになると思えます。

先月号「三基の馬頭観音」の縁起について、碑に刻まれている文字以外は総て古老の語草によるもの。このことについては参考にごせていただいた林田次郎氏の記録にもその旨が記されています。又観音安置の土地所有者佐瀬芳三さんからも「事実と異なる点や、異説もある」という御注意を戴きましたが、これは寄稿者の調査と連絡不備によるもので、御注意を戴いたお礼を兼ね、そのお託げと、この内容が事実談ではなく一つの物語であることをお断りいたします。



◎写真はその碑ですが、背面には日露之役砲兵二等卒勲八等伊藤源一郎、同歩兵一等卒勲八等功七級行木長治、同勲八等功七級若梅藤藏、台湾事件台湾蕃薯寮巡查徳田武、昭和六年四月、千葉県山武郡横芝町、主催帝國在郷軍人会横芝分会と刻まれています。勇士の氏名がこの四名だけなのは碑が材質の硬い花崗岩なので追加

不耕作農地の管理は十分に

最近、田や畑が耕作されないまま放置されているのが多く見受けられます。この不耕作農地の殆んどは荒地となり、雑草が生い茂っており、これは隣接の耕作者にとっては大変迷惑なことです。農地を耕作されない場合は必ず管理を充分していただき隣接の農地等に迷惑のかけられないようにしましょう。また、これから乾燥期に向い、火災などの危険もありますので、急いで雑草の刈取りなどを実施して下さい。

なお、不耕作農地を他に貸付できる方は農業委員会又は、地区の農業委員さんにご相談ください。

会議、研修、親睦などの会合に
横芝町国民保養センター
 をご利用ください
 (宿泊研修等のご相談に応じます)
 ご相談は
 直接保養センター(2-2540)へ